

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和2年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

1 前年度 評価結果の概要	<p>○学習時間および上位者についての目標達成状況を改善する必要がある。また、下位層については鶴城寺子屋の取組を発展させる等、生徒の状況に応じて学力の保障を担保する取組をさらに進める必要がある。</p> <p>○職場体験や大学訪問等、体験的な活動により生徒の興味関心を高めることができた。1年間の行事の見直し整理をさらに進めて中高6年間を貫くキャリア教育を進める体制作りを進める。</p> <p>○令和3年度から完全実施となる次期学習指導要領について、研究を深め、円滑な実施につなげる。特に道徳についての指導法や評価について研究を進める。</p> <p>○不登校、学力不振や集団への不適応等について、早期発見と生徒理解協議会等の対策を引き続き進めていく必要がある。いじめについては、必ず存在しているという意識を持って計画的に指導を行う。</p> <p>○令和2年度は、学習用PCの更新が行われるため、情報の共有をすすめスムーズな更新が行われるように務める。</p> <p>○中高一貫教育充実のための方策「19の方策」を策定してから6年が経過したので、当初の計画通り総括と見直しを行う。</p> <p>○部活動休養日については週2日の設定を概ね実施できた。4月から施行される改正労働基準法に沿って働き方改革を進め、職員の在校時間の一層の短縮および全職員が年休を取得しやすい環境を作る。</p>
2 学校教育目標	校訓「光 力 望」のもと、「自主自律」の精神を培い、知・徳・体の調和のとれた、地域や国際社会の発展に貢献する、高い知性と志を備えた、心身ともに逞しい生徒を育成する。
3 本年度の重点目標	<p>①生徒一人ひとりの進路希望の実現</p> <p>②わかる授業実践と授業改善への取組</p> <p>③社会性を高め、自らを律し、相手を思いやる心の教育の充実</p> <p>④グローバル人材、チャレンジ精神を持った生徒の育成</p>

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

(1)共通評価項目							
評価項目	重点取組		最終評価		学校関係者評価		
	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師75%以上にする。	・評価シートに関する説明会を行い、マイプランへの理解を深める。 ・学年団で調整しながら、各自のマイプランを設定する。 ・3学期にマイプランの達成度を検証し、次年度への課題の洗い出しを行う。	A	・評価シートに関する説明は、5月に3回に分けて実施した。 ・職員各自のマイプランについては5月中旬までに設定完了した。 ・最終的にマイプランを達成した職員は94%であった。 ・本校の「県学習状況調査」での正答率は県平均と比べて「思・判・表」に関する問のリードが大きい。次年度に向けては「正確に読む」ことに加えて「知識・技能」の取りこぼしを抑えることが、課題である。	A	・方策と実施結果が具体的に表記されていて、学校の熱意が感じられる。今後も、生徒一人ひとりに対する深い理解に基づいた指導ができるように引き続き努力して欲しい。 ・自信に満ちた評価がなされており、今後もこの調子で継続していただきたい。
	○学力の向上	○学力推移調査においてA1以上の生徒を38名以上にする。	・わかる授業の実践に取り組み、効果的で適切な課題に取り組みさせる。 ・調査前を中心としたサポート学習を行う。 ・学力分析会(年3回)を実施し、結果の共有と課題の洗い出しを行う。	A	・学力推移調査におけるA1以上の生徒数は、いずれの学年も年度初めに比べて増加させることができた。成果指標については、2年生では9月調査で、3年生では1月調査で、いずれも3教科の総合で成果指標を達成できた。 ・各定期考査前に、望の時間を利用して3学年ともサポート学習を実施した。また、鶴城寺子屋については、4回実施することができた。 ・学力分析会を7月、11月、3月に実施した。	A	・サポート学習や鶴城寺子屋等の学校全体で取り組んできた学力向上の取り組みが実を結び、学力推移調査で成果指標を達成できたことは喜ばしい。先生方の努力がうかがえる。 ・成果指標がもともと大変高く設定されているので、A評価は妥当と思われる。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「道徳の時間が好きである」と回答する生徒を80%以上にする。	・「考え、議論する道徳」の授業実践に取り組むため、職員室に道徳コーナーを設けて、教材や参考資料の共有を行う。 ・校内研修の開催、校外研修の周知を行う。	B	・生徒対象のアンケートで「道徳の授業が好きだ」と回答した生徒は77%であった。 ・職員室に設けた道徳コーナーでは、4つの内容項目で分類した共有教材、参考資料等を約120件ストックした。 ・校内研修の実施は次年度に向けての課題である。	A	・道徳の時間を大切にしていることはいいことである。自他を思いやる心や豊かな心は、特別活動をはじめとして日常の生徒との対応の中で育てて欲しい。 ・数値目標に「道徳の時間が好きである」と回答する生徒を80%以上にするというのは面白いと思う。逆に「そう思わない」生徒の理由を聞いてみたいものだ。 ・生徒一人一人に対してきめ細かい配慮がなされていると思います。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止基本方針にもとづいて対応できる職員を90%以上にする。	・いじめに関する職員研修を実施する。 ・「いじめ未然防止の取組」「いじめ早期発見の取組」に努める。	B	・いじめに関する職員研修は4月、7月、12月に実施した。 ・職員対象アンケートの結果は以下のとおり。 定義・教職員の責務を理解している90% 環境づくりをしている90% 生徒の窓口としての役割を担っている80% 記録共有を行っている85% 直ちに報告相談している85% ・研修内容に従った正確な理解、早期発見の努力の結果、今年度のいじめの認知は5件であった。	A	・いじめの法律上の定義に驚いた。早期発見の努力とフォローがよくなされている。 ・新しい学習環境や人間関係等、生徒は期待や不安が入り交じりストレスの多い年頃と思われる。子どもたちが相談しやすい環境を作り、安心感を与える努力を継続して欲しい。
	◎ふるさと佐賀への思いを醸成するための教育活動	◎「佐賀県に誇りや愛着を感じる・どちらかという感じる」と回答する生徒を80%以上にする。	・鏡山登山や唐津城までのウォーキング等、ふるさとを体験する行事を実施する。 ・総学での「ふるさと学」を実施する。	B	・「佐賀県に誇りや愛着を感じる」と回答した生徒は72%であった。 ・鏡山登山等ふるさとを体験する行事は、休校のため実施できなかった。 ・「ふるさと学」では、2年生の職場体験は職場研究学習に変更して実施した以外は、1年生の体験学習、3年生の研究発表は予定どおり実施できた。	B	・唐津の人間としては、佐賀県よりも唐津に対する愛着の方が大きいのは事実であり、佐賀県を誇りに思っている生徒は予想以上に高い数字と感じる。佐賀県の魅力を全県を挙げて発信していけば、もっと数字は向上するであろう。鏡山や唐津城もよいが虹ノ松原のウォーキングも唐津のよさを体感できるのではないかと。
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康のために食事は大切である」と回答する生徒を90%以上にする。	・「保健だより」等をおとして、食育に関する情報を提供する。 ・11月の食育月間で「保健だより食育号」を発行し、情報を提供する。 ・ミルク給食やフッ化物洗口等の円滑かつ適切な運営を行う。	A	・「健康のために食事は大切である」と回答した生徒は96%であった。 ・「保健だより食育号」を2月に発行し、食に関する情報を提供することができた。 ・ミルク給食、フッ化物洗口ともトラブル無く運営できた。	A	・自己管理は当然大切ではあるが、食育については親の認識が重要であり、本来は家庭で担うべきものではないかと。 ・成長期の子どもたちにとって大切なことである。家庭と一体となって取り組んで欲しい。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外勤務時間の上限を遵守する。	・時間外勤務時間の上限を職員に周知する。 ・職員の在校時間を把握し、必要に応じて面談を行う。 ・部活動について効果的かつ十分な休養日を設定する。また、外部人材の活用を進める。	B	・上限時間は4月に全職員に周知したほか、45時間超過者全員に対して行った面接時に再確認した。 ・毎週2日の部活動休養日は完全に実施できた。また、外部人材はスクールサポートスタッフ1名、外部指導者2名、部活動指導委員2名の計5名を確保できた。 ・80h/月を超過した者は0人であったものの、1ヶ月当たりの上限時間(45h)を超過した者は延べ64人(25.4%、一人当たり平均37.0h/月)、年間の上限時間(360h)を超過したものは15名(71.4%)であった。	A	・上限時間を全職員に周知し、外部人材の活用を進める等、先生方の健康維持のための努力がなされている。一方、駐車場には土日はもとより、毎晩遅くまで車が止まっていることも事実であり、頭が下がる。学校として環境を整える努力は十分感じられるので、後は先生方の自己責任でやられているものと思うべきであろう。 ・熱意・責任感と家庭での役割・休養の板挟みの先生方も多いものと思う。今が過渡期だと思います。 ・先生方の職務は本当にきりが無いと思います。ストレスの解消には十分に努めてください。

5 総合評価・ 次年度への展望	<p>●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育</p> <p>・学力の向上については、2つの学年で成果指標を達成するなど、想定以上の数字を達成できた。次年度も継続して成果指標を達成するために、さらなる取組を進めていきたい。また、試行段階から参加している「日本語リーディングリテラシーテスト」については、その結果をどのように指導につなげるかについて検討していきたい。</p> <p>・心の教育については、道徳に関する校内研修の実施をおとして「考え議論する道徳」の実践を進めたい。また、いじめについては、全ての職員が基本方針を理解し、それに基づいて行動することで、引き続き早期発見に努めていきたい。志を高める教育ではふるさと学が佐賀県への誇りや愛着を育むものとなっているか、見直しを行う。</p> <p>・業務改善・教職員の働き方改革の推進については、当初予定していた具体的取組について全て実施したものの、成果指標の達成には至らなかった。次年度は目標達成に向けてより効果的な取組の検討をしていきたい。</p>
--------------------	--